

Hospitality

地域のホスピタリティを訪ねて

輝け!石見神楽を支える 次代の子供達

どんちっちサポートIWAMI 会長 川神 裕司
(かわかみ・ひろし)



世界に誇れる石見神楽との出会い

今注目されている石見神楽ですが、浜田市はテンポの早い八調子発祥の地としても知られており、その伝統を守り勇壮絢爛たる神楽を神社に奉納するだけでなく、日本全国のみならず世界へ飛び出すようになりました。浜田市内において神楽団体は50以上を数えそれぞれ日々研鑽を重ねています。

私が石見神楽を本格的に始めたのは大学を卒業して浜田に帰ってきた24歳の時でした。地元で薬剤師という仕事をする傍ら、神話の世界に関心があり石見神楽にものめり込みました。おそらく幼少の頃に聞いた神楽囃子が体に刷り込まれていたのか囃子の音を耳にすると血が騒ぎます。当時の練習は、ビデオカメラなどはありませんから、社中の先輩の家まで押しかけて指導を受けたものです。

後継者不足により石見神楽の未来に赤信号

私が大学を卒業し故郷で神楽を始めた頃、少子化の中、子供たちも部活動などで神楽に関わる機会が減っていました。その時石見神楽の発展と後継者不足を解消を目的に、「石見神楽を語る会」を発足し、その活動の一環として神楽を舞う子供たちの発表の場があまりに少ない点に着目し、有志が集まり「子供神楽フェスタ実行委員会」を結成しました。子供たちが主役の大会を開催することで参加する子供たちに郷土愛と地域の人々との交流の大切さを感じてもらいたいと思っています。

子供神楽フェスタ実行委員会が活動の幅を広げ進化 ～どんちっちサポートIWAMIの誕生～

実行委員会が毎年の神楽大会を充実していく中で、メンバーから「神楽大会だけの運営組織ではもったいない! 神楽に関わっている子供達を色々な面で支えたい」という意見が出されました。そして平成20年4月30日に設立総会を実施し、神楽に関わる子供たちを支えるための「どんちっちサポートIWAMI」を立ち上げました。新組織の名称については、子供たちが神楽のことを「どんちっち」と呼んでいること、それを全面的にサポートし活動範囲をいすれ

広げていきたいことから浜田ではなく「石見」としました。

具体的な活動としては①いわみ子供神楽フェスタの開催②各神楽団体間のスポーツを通じた相互交流③市内神社の清掃・神主のお話を聞くことで礼節を尊ぶ心を養い自分たちの故郷の歴史を誇る心を育成する活動④外部から子供神楽出演要請があった場合の派遣調整⑤浜っ子祭り等における子供鬼軍団としての協力等本当に幅広い活動が可能になりました。ちなみに今年は百人一首ブームに乗り、「石見神楽歌百人一首」を当会で作成し子供たちに楽しんでもらっています。いずれは販売や大会開催ができるかと検討中です。

どんちっちサポートIWAMIが目指すもの

私達はこの地域財産としての石見神楽の後継者をいかに増やし地域に定着してもらうかを考えなくてはなりません。子供達には時代が変わっても「神楽の本質」は守っていかなくてはならないと伝えると同時に、伝統とは単に形を守るのでなく時代の変化を取り入れる挑戦だということも感じてほしいと思います。

来年は「いわみ子供神楽フェスタ」開催20周年という大変大きな節目を迎えます。最近この大会に参加経験のある青年が神楽を続けたいがために地元就職をしたという話を頻繁に聞きます。私達子供神楽関係者としてもとても嬉しく思っています。地域の発展のためにも子供神楽の支援を通じて今後も積極的に活動して参ります。市民の方々の子供への温かい声援をよろしくお願ひいたします。

